

## 愛とは何か

## 新島の説教「愛とは何か」

- 1886年、仙台教会で
- キリスト教とは何か
  - 愛以貫之(愛をもってこれを貫く)

2

## 説教の時代的背景

- この年の2~3月、日本基督一致教会と日本組合教会の教会合併の話し合いが進められていた。
- 長老主義系の一致教会の押川方義牧師は、1885年、宮城女学校を設立し、さらに英学校を設立する計画を立ててた。

3

## 自由と愛の関係

- 「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。」
  - ガラテヤの信徒への手紙5:13-14

4

## 隣人愛とは何か

- 「隣人を自分のように愛しなさい」
  - マルコ12:28-31
- 「隣人とは誰か」
  - ルカ10:25-37

5

- 「最も小さい者の一人にしたのは...」
  - マタイ25:31-46
- 「最も小さい者こそ、最も偉い者である」
  - ルカ9:46-48

6

## 自責の杖事件(1880年)

- 教師会により、2年生の上級組と下級組が合併。その決定に反発した上級組は全員無届け欠席。
- 5年生は校則違反の処分を学校側に迫り、教師たちは頭を抱える。

7

「罪は教師にも生徒諸君にもない。紛争の全責任は校長にあります。校長である私は、その罪人を罰しません……。」



8

## 同志社創立10周年記念会での祝辞

「諸君とともに過去を追想して記念としたいのは、昨年私が〔渡米で〕不在中に同志社を退学させられた人々のことである。ほんとうに彼らのためには涙を流さずにはいられない。彼らは真の道を聞き真の学問をしていた人であったが、ついに退学させられることになった。」

9

諸君よ、人ひとりは大切である。ひとりは大切である。過去はすでにすぎたことなのでどうしようもない。しかし、今後については私たちはまことに用心深くありたいものである」(先生は涙を流し、胸をつまらせながら述べられたので、満場ひとりとして涙ぐまない者はなかった)。

『現代語で読む新島襄』183-184頁

10

## 自己理解と他者理解の相互関係

- 自己理解
  - 自己の中の「他者性」の発見・受容
- 他者理解
  - 他者の中の「他者性」の発見・受容

11

- 「隣人を自分のように愛しなさい」
  - 他者による自己の中の「他者性」の受容の可能性
  - 自己の変容、他者の変容

12

一八八六(明治十九)年五月三十日



(125) 移転後の同志社仙台分校・東華学校\* (宮城英学校を改称) の旧校舎

た。キリスト教は「愛をもってこれを貫く」のが特徴、と説く。

「キリスト教とは何か」と人から尋ねられたら、「愛をもってこれを貫く」と答えたい。

かつて日本には神の愛という教えがなかったから、愛

といえただだ君臣の愛や夫婦の愛、それに親子の愛や兄弟、友人の愛に限られた。それゆえ、とかく片寄った愛のみが行われ、聖書のこの箇所(エフェソの信徒への手紙 三・一三以下)にあるようなキリストの愛は、キリスト教が日本に入るまでは耳にすることができなかった。

神は義なる者にも不義なる者にも公平に雨を降らせ、陽を照らされる。神が完全であるというのは、すなわちこの愛なのである。事あるごとに私たちのために配慮してくださる。この愛で人間を導こうとされる。それなのに私たちはとかくそれを忘れてしまう。神の愛は被造物から推しはかるべきである。例をあげると――

小山田高家は新田義貞のために死んだ。  
楠正成は後醍醐天皇のために命を捧げた。

五百人の義士が斉の田横のために殉死した。

赤穂の義士たちは彼らの主君のために仇をうった。

プロシアの皇帝の一言が負傷した兵士を感激させた。

母親のひと粒の涙が道楽息子を改悛させる。

かつてキリストは、「山上の説教」(マタイによる福音書 五・一以下)で「右の頬を打たれたら左をも差し出し、一里行けと言われたら二里行け、上着を取られたら

下着をも取らせよ」と教えられた。

キリストの愛は広く、深く、また高い。

一学生は、「キリストで感心するのは、心が広くて、自分の敵の罪を許すように、と十字架の上でも神に祈られたことだ」と言った。これは人間にはできなくて、キリストだけが可能である。

キリストは私たちを救うために自分の食べる物を問題にせず、自分の立っている所も人に譲られる。また人に逆らわず、すなおに捕縛されてゲツセマネの刑場に引かれ、裁く人の前でも沈黙して言い訳せず、荆棘の冠さえ受けて十字架につけられ、自分を罰する者を許せ、と祈って死なれた。

キリストはこの愛をもってこの世に來られ、神の道を説かれ、私たちを救うために荆棘の冠を被せられ、十字架に磔られた。また、この愛を

もって私たちを近くに引き寄せ、今も私たちの心に働きかけられている。

愛は忍び、許すものである。一見、弱々しく無力に見えるが、天下の誰が愛に敵対できようか。犬や猫でさえも人間の愛に動かされるではないか。

# 真神の道は愛を以てこれを貫く

(126)「真神の道 愛を以てこれを貫く」(新島の書)

裏

キリストはこの愛をもってこの世に來られ、神の道を説かれ、私たちを救うために荆棘の冠を被せられ、十字架に磔られた。また、この愛を

## <隣人愛とは何か>

■彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」(マルコによる福音書 12:28-31)

■すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」(ルカによる福音書 10:25-37)

■「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、羊を右に、山羊を左に置く。そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』そこで、王は答える。『はつきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渇いたときに飲ませず、旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のとき、牢にいたときに、訪ねてくれなかったからだ。』すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渇いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢に

おられたりするのを見て、お世話をしなかったでしょうか。』そこで、王は答える。『はっきり言っておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。」(マタイによる福音書 25:31-46)

弟子たちの間で、自分たちのうちだれがいちばん偉いかという議論が起きた。イエスは彼らの心の内を見抜き、一人の子供の手を取り、御自分のそばに立たせて、言われた。「わたしの名のためにこの子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。わたしを受け入れる者は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い者である。」(ルカによる福音書 9:46-48)

■あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。(マタイによる福音書 5:43-45)